

平成 28 年度

中心市街地拠点施設整備基本計画策定委員会

第 1 回図書館専門部会

平成 28 年 12 月 7 日

四日市市 政策推進部 政策推進課

1. 中心市街地拠点施設整備基本計画における新図書館について

◇基本方針の検討について

(1) 基本計画における「新図書館の基本方針」

中心市街地拠点施設整備基本計画には、「新図書館の基本方針」を盛り込むこととしている。

(2) これまでの新図書館に関する考え方

これまで市民アンケート調査結果をもとに検討した「新しい図書館のあり方検討会報告書」における「新図書館の方向性」を基本とし、新図書館を取り巻く情勢を踏まえた形で基本計画「新図書館の基本方針」を検討する。

(3) 拠点施設に係る市の方針

拠点施設での整備にあたっては、新図書館全体に市の方針である“ICT（※1）対応”と“滞在型”を織り込むこととする。

(4) 建物設計や事業方針

新図書館の床面積や間取り、設備などの具体化については、基本計画の策定後に建物設計で行うことになる。

また、新図書館での詳細な図書館サービスについては、新図書館の開館までに基本計画と整合を図りつつ、別途、「新図書館の事業方針」として定めることになる。

《参考》 現図書館の主な課題や問題点の状況

現図書館の課題や問題点
建物が手狭で、書架・閲覧スペースが不足している。
設備が老朽化し、修繕や更新が多くなってきている。
駐車場が不足している。 （専用・共用の駐車場 97 台で、夏休みを除く平日には概ね不足しないが、土日祝日にはピーク時に 170 台くらいの駐車需要もあり、97 台枠での入庫待ちがある。）
最寄りの鉄道駅から距離がある。 （近鉄四日市駅より約 820m であり、人通りが少なく、夜道が暗い。）
エレベーター、多目的トイレの数が不足し、またオストメイト（※2）への対応がなく、バリアフリー対応が不十分である。
畳スペースが狭く、また授乳室やオムツ交換台がなく、子育て対応が不十分である。
インターネット閲覧席が少なく、またDVD視聴席やデータベース（※3）閲覧席等がなく、ICT（※1）対応が不十分である。
バーコード管理により、自動貸出機(1台)や蔵書点検が1冊ずつの処理で手間と時間がかかる。
全体利用者の中で、乳幼児、中高生から20歳代、高齢者の利用割合が少ない。

※1・・・コンピュータにより図書などの情報を処理し、図書館利用を便利にする情報通信技術。

※2・・・人工肛門、人工膀胱を造設した人。

※3・・・専用パソコンで新聞記事や経営情報など大量の情報から検索・閲覧できるもの。

VI. 新図書館に関する検討について

1 中心市街地拠点施設に係る市の方針について

(1) 導入機能

ICTにも対応し、日常の居場所ともなる「新たな滞在型図書館」

(2) 想定イメージ

書架について、十分な空間を確保するとともに、読書だけでなく、調べ物をしたり、子どもから大人まで、幅広い世代がゆっくり本を楽しめるような、閲覧席やスペースにも配慮する。

また、ICTコーナーを設け、PCなどを使用したデジタル資料等の閲覧や調べものにも対応することで、ずっとここにいたくなる、来訪者に滞在してもらえる図書館にしておく。

2 これまでの新図書館に関する調査検討について

(1) 基本的な方向

- ① 市民ひとり一人の生涯学習の場づくり
- ② 子どもたちの読書環境づくり

(2) 主な方針

① 幅広く豊富な蔵書の整備と活用

- ・ 録音資料や電子書籍も含め、幅広く豊富な蔵書をそろえ、求める図書を提供する。
- ・ 子どもから高齢者まで、また多様な興味や関心、それぞれのニーズに対応できる。
- ・ 豊富な蔵書より手に取って閲覧しながら、自分に合った本選びができる。

② レファレンスや企画展示、企画講座の充実

- ・ 幅広く豊富な蔵書等を活用し、求める図書の本探し、本選びをサポートする。
- ・ 市民が企画し、また行政情報を活用した魅力のある多彩な展示や講座を開催する。

③ 子どもの読書活動の推進

- ・ 乳幼児や小学生には、本に親しみ、本を読み進めるように取り組む。
- ・ 中高生には、図書館に集い、主体的に生涯学習をするように取り組む。

④ 豊富な地域資料の整備と活用

- ・ 歴史や文化、産業、環境等に関する地域資料を収集し、保存していく。
- ・ ICTを活用し、魅力のある地域資料を公開していく。

⑤ 人権学習とバリアフリーの推進

- ・ あらゆる分野に人権の視点がある図書を収集し、人権コーナーで特集する。
- ・ 視覚障害をはじめとし、心身に障害があっても利用できるように取り組む。

⑥ 市民ボランティアや行政機関等との協働

- ・ 市民による多彩な読み聞かせ会、青少年が企画する展示や講座を開催する。
- ・ 行政情報を活用したテーマの展示や講座を開催する。

3 今回の論点に関する検討例と各委員からの意見について

1- (1) ICTへの対応について

データベース閲覧席の空き情報や書架に並ぶ図書の情報などがスマホを使ってリアルタイムにわかるシステムの導入など、ICTを活用した利用しやすさについて検討していく。

1- (2) 幅広い世代がゆっくり本を楽しめる滞在型図書館について

ゆとりを持ちつつ、より多くの冊数の開架冊数や閲覧席数のスペースをフロアに確保するとともに、幅広い世代に合った空間、また静かにするエリアや小声のエリアなど、多様な利用に合った空間づくりについて検討していく。

1- (3) 開館時間等について

昼間に来館しにくい利用者、また空いた時間に立ち寄りたい利用者などのため、午後9時までの開館時間など、気軽に立ち寄れる開館について検討していく。

2- (1) 幅広く豊富な蔵書について

長期的に図書を保存し、その閲覧ニーズに対応できるように蔵書構築を図っていくとともに、地域資料など四日市市ならではのコレクションについて検討していく。

2- (2) レファレンスや展示・講座の充実について

市役所や総合会館と近くなるからこそ、保健福祉や環境など各行政部局と連携体制を構築でき、専門窓口の紹介(レフェラル)、課題解決支援型の展示会や講座の共同開催を行うなど、司書業務の拡充について検討していく。

2- (3) 子どもの読書活動の推進について

子育て施設の親子にアウトリーチしたり、青少年サポーターが参画の展示会や講座を開催したりするなど、図書館や司書を活かした子ども読書の取り組みについて検討していく。

2- (4) 豊富な地域資料とその活用について

四日市市にこだわった図書や地図、写真、映像などを収集し、保存するとともに、デジタル化して博物館の所蔵品と一括検索できるなど、アーカイブについて検討していく。

2- (5) 人権学習とバリアフリーの推進について

引き続き、あらゆるジャンルに人権関係図書の視点を持って収集するとともに、図書館ボランティアと協働のうえ必要な点字録音資料を提供していく。

2- (6) 市民ボランティアや行政機関等との協働について

図書館ボランティアと協働して、オープンな共用スペースで読み聞かせ会を開催したり、バックヤードツアーを開催したりするなど、魅力をアップする協働について検討していく。